

どんなときに救急車を呼べばいいのか？

- ◆けいれんが止まらない、5分以上続く、繰り返す
- ◆呼吸がきわめて困難になっている（「せきが出る」→P3）
- ◆ひどい腹痛や頭痛がある
- ◆意識が無い
- ◆出血が激しく止まらない（鼻血は「いつもと様子がちがう」→P6）



- ① 局番なしの「119」をダイヤル
- ② 「救急車をお願いします」と伝える
- ③ 子どもの名前、年齢、住所、電話番号、場所の目印となる建物などを伝える
- ④ 持病がある場合は、その病名とかかりつけの医療機関を伝える
- ⑤ 子どもの症状を伝える

救急車を待つ間



- ① 健康保険証、母子手帳、お金を用意する。
- ② 玄関の鍵をあける。
- ③ 家族や近所の人がいれば、救急車が到着したときの誘導をお願いする。

救急車で病院に行くとき



- ① 救急救命士の指示に従う。
- ② 家を出る前に火元を確認する。
- ③ 入院せずに帰宅することもあるので靴を持って行く。
- ④ 戸締りを忘れずに！

(社団法人 日本小児科学会)

こどもの救急ホームページ <http://kodomo-qq.jp>

ホームページを開く→「気になる症状」をクリック→あてはまる症状を選択
「救急車で病院に行く」「自家用車で病院に行く」「おうちで様子を見る」
などの対処方法が表示されます。受診の判断の目安にしてください。

チャート取り扱い説明書

チャートで行き着いた指示の塗りつぶしの色の意味



救急車を呼ぶ！ 2次・3次救急レベルの可能性あり！
入院や集中治療が必要になる可能性が高く、場合によっては命に関わる場合もあります。

必ず電話相談を！

入院（2次救急）レベルの病気かもしれません。
※119番ではなく、かかりつけ医か2次救急輪番病院か#8000番へ

あわてなくてもよい（1次救急）レベルでしょう。
診察時間内にかかりつけのお医者さんに診てもらいましょう。
※連休中なら翌日の休日診療所などを受診しておきましょう。

病気ではない・心配ない状態でしょう。

子どもの急な病気・けがなどで受診を悩んだら

小児救急電話相談 **#8000**

小児科医師・看護師などから子どもの症状に応じた適切な対処の仕方や、受診する病院等のアドバイスを受けられます。



相談時間	月～金	～
	土曜日	～
	日・祝	～

◆ダイヤル回線・IP電話からは TEL () —

- ※電話が混み合ってつながりにくい場合が予想されますが、あらかじめご了承ください。
- ※電話がつながったら、あわてずゆっくりと、お子さまの症状、年齢、お住まいの市町村などをお話してください。
- ※誤飲に関するご相談は「中毒110番」をご利用ください。(P10参照)

熱が出た

逆に36度未満の低体温にも注意！

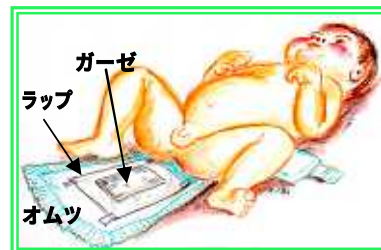


小児救急電話相談
「#8000」を活用
しましょう(P1参照)

受診前には必ず確認の電話を病院へ！
解熱剤の座薬や頓服をいつも家にストックしてね！
これは痛み止めとしても使えます。
大人に使う薬は子どもには代用禁とします！

「顔色不良」なうえ
(顔面蒼白やチアノーゼ)
「呼吸が弱い」
「意識が無い」
「言動がおかしく
視線も合わない」
「5分以上のけいれん」
などの時は
救急車を！

1回目の体温測定後、適切な室温や衣服で
安静にさせ、30分後にもう一度測る



オムツをしている子の尿採取方法
自宅で受診する前にセットすると
受診時の尿検査がスムーズです。

38度以上のとき

赤ちゃんが4か月以上

赤ちゃんが生後早期
(0~3か月)
(通常3か月未満のこと)

医師に伝えること

- ・熱は何度あるか
- ・熱はいつごろからか
- ・熱以外の症状について
- ・食事や水分は取れているか
- ・おしっこが出ているか

機嫌が悪い、または
発熱以外にいつもと
様子が違う

診療時間外でも電話相談して
受診場所や時間を決めておく
(発熱対応や他症状のチャート
も参考に)

発熱以外はいつもと
変わらない
機嫌・活気・哺乳も
普通で顔色も良く
周りに興味を示す

診療時間内にかかりつけ医院へ

機嫌が悪い、または
発熱以外にいつもと
様子が違う

出来るだけ早く小児科を受診！
救急車の必要があるかどうかは
上のイラストの
コメントを参考に！
わからない時は電話相談！



発熱以外はいつもと
変わらない
機嫌・活気・哺乳も
普通で顔色も良く
周りに興味を示す

重症感が無くても時間外でも
(必ず電話相談して) 小児科を受
診すること
発熱以外にも症状の悪化があれば
速やかに小児科を受診する
1か月未満の赤ちゃんは入院にな
ることが多い

機嫌が悪い、または
発熱以外にいつもと
様子が違う

診療時間外でも電話相談して
受診場所や時間を決めておく
(左記の月例別対応や他症状の
チャートも参考に)

発熱以外はいつもと変わらない
機嫌・活気・哺乳力も普通で
顔色も良く、周りに興味を示す

診療時間内にかかりつけ医院へ

様子を見る

★逆に36度未満の低体温
の時も要注意・要相談！

★子どもの急な発熱で受診をした方が良いか悩んだときは、
小児救急電話相談「#8000」を利用しましょう。(詳しくはP1を参照)

発熱で一番怖い病気の代表が『髄膜炎(ずいまくえん)』です

発熱+嘔吐+頭痛(赤ちゃんなら不機嫌・不活発)と3つ症状が揃えば『髄膜炎』の可能性があります。

髄膜炎の場合、頭や首などが痛くて首を前に曲げにくくなります。ですから、もしお子さんが、お気に入りのおもちゃを下に置いて、あごが胸に付くくらい目線を落とし、機嫌よく遊べていれば、髄膜炎の可能性は低いと思います。ただし乳幼児期にはそういう症状が出にくい場合もありますので、3つの症状がある場合は早期相談・早期受診が必要です。

発熱は体の負担となりますが、防御反応のひとつです

人間はウイルスや細菌などの病原体に感染すると熱を出して、体内に入り込んだ病原体の活動を抑えようとしてます。平熱よりも1度以上高く、環境を整え、時間を置いても下がらないなら発熱といえます。他にもいつもと違う様子が無いが確認しましょう。(普段から体温をはかり平熱を知っておくことも必要です)
赤ちゃんは体温調節機能が未熟なため、室温や衣類の着せ方によって体温が上がることもあります。

全てのチャートはあくまでも目安です。症状は人によって異なるため様子をよく観察し、心配な時は受診すべきかどうかを電話で相談しましょう。



パニックになっては（もちろんのんびりしすぎても）いけません。
 まずはあなた（パパ・ママ）が落ち着いてください。（芝居でも）
 冷静な親を見ると、お子さんは安心します。
 説明しにくい時は電話口にご子どもさんを近づけ、咳や呼吸の音を
 聞いてもらうか、携帯動画で記録！

小児救急電話相談
 「#8000」を活用
 しましょう（P1参照）



せきが出る



医師に伝えること

- ・何かを詰まらせてはいないか
- ・特徴的な音のせきが出ているか
- ・発熱、鼻水など、
 せき以外の症状があるか
- ・機嫌が悪くなったり、
 食事の量は減っていないか
- ・睡眠はとれているか
- ・アレルギー体質はどうか

急病時の問い合わせ先

★かかりつけ医、休日診療所などの
 電話番号を記入しておきましょう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

咳が続いている

ぐったりし、会話もまともに出来ない
 唇やつめが紫色になる（チアノーゼ）

本人の呼吸が楽になる姿勢
 （上半身を起す）にして
救急車を呼ぶ！（P1）

咳や喘鳴で横になれない、眠れない、咳き込んで何度も吐く
 夜中に犬がオットセイみたいなきき込みがさらに悪化し、
 普段の呼吸でさえヒューヒューゼーゼーと鳴り、肩で息をした
 り、首の根元がペコペコへこむ呼吸
 （→息を吸う時にしんどいのか、吐く時にしんどいのか？
 口唇チアノーゼがあるか？などを観察する。）

**即電話相談し、家での対処
 法を聞き、救急車を要請が
 必要かも知れなく
 至急受診を要する**

咳は軽く、眠れる

かかりつけの医院を受診
 夜間・休日なら
 （連休以外）翌日受診

急に咳き込む

ひどく咳き込み、呼吸困難を起こしている
 直前に口にしてた豆類や玩具等が詰まった可能性が高く、
チアノーゼが出て、泣くことも会話も出来ない
 大きな子は自分の口や首に手を伸ばす仕草をする

咳で異物が出なければ
 逆さにして背中を敲打！
救急車を呼ぶ！（P1）

咳き込んで吐く、ヒューヒューゼーゼーと響く呼吸をしてい
 るが眠れる（横になれる）
 持続するのなら左記の「咳が続いている」の項へ
 ◎症状は軽症でも直前まで口の周りに持っていたおもちゃや
 食べ物が無くなっていないかを確認！

電話相談して出来るだけ
 早く受診（誤飲の可能性の
 有無も話すこと）

発熱や鼻水などの症状がある（P2発熱チャートも参考に）
 のどが腫れている。または痛みがある様子

かかりつけの医院を受診
 夜間・休日なら
 （連休以外）翌日受診

ほかに症状がなく、治まれば元気にしている
 気温が下がったときにコンコンという咳が出る
 授乳後、たんがからんだようなゼロゼロ音がする

すぐにもおさまるようなら
 病的なものはないので様
 子を見る

のどや呼吸器の炎症のほか防御反応として出ることもある

特徴的なせきの音で病気が分かることがあるので、まずはどんなせきが出ているのか確認しましょう。
 電話相談のときに**本人の呼吸音を電話に近づけて相談相手に聞いてもらう**といひましょう。
 せきはのどや呼吸器が炎症を起こしたときだけでなく、異物やほこりを吸い込んだとき、気温の変化が大きいとき、
 呼吸器の粘膜から出た分泌物をのどから外に出そうとしたときにも出ます。
 せきは気道にたまった分泌物や異物を体内に入らずに押し出し、呼吸機能を正常に保つための防御反応なのです。
 気温が下がったときに出るコンコンというせきや、おっぱいやミルクを飲んだあとにするゼロゼロ音は、赤ちゃん
 によく見られるもので心配いりません。



ホームケア ぜんそく・クループの図（P9）も参考に

★室内は換気、掃除をこまめにし清潔に。湿度を高めめに保ちましょう。上体を高くして寝かせましょう。咳き込んだ
 ときは起こすか、抱っこして背中をさすってあげましょう。飲物でのどを湿らせてあげると苦さが和らぎます。



1回吐いたら1～2時間ほどは飲んだり食べたりせずにお腹を休めて！
発熱＋頭痛＋嘔吐の3つがそろえば『髄膜炎』の可能性あり！要注意！
緑色そして血性の嘔吐にも注意！お子さんはパパ・ママに怒られたり、
 けがの痛みなどのストレスや不安が原因で嘔吐することもあります。

小児救急電話相談
 「#8000」を活用
 しましょう (P1参照)



吐いた



医師に伝えること

- ・吐いた回数
- ・吐いたものの内容
- ・どんな状態で吐いたか
 (げっぷと一緒に吐くなど)
- ・発熱や下痢など、
 嘔吐以外の症状について



ホームケア

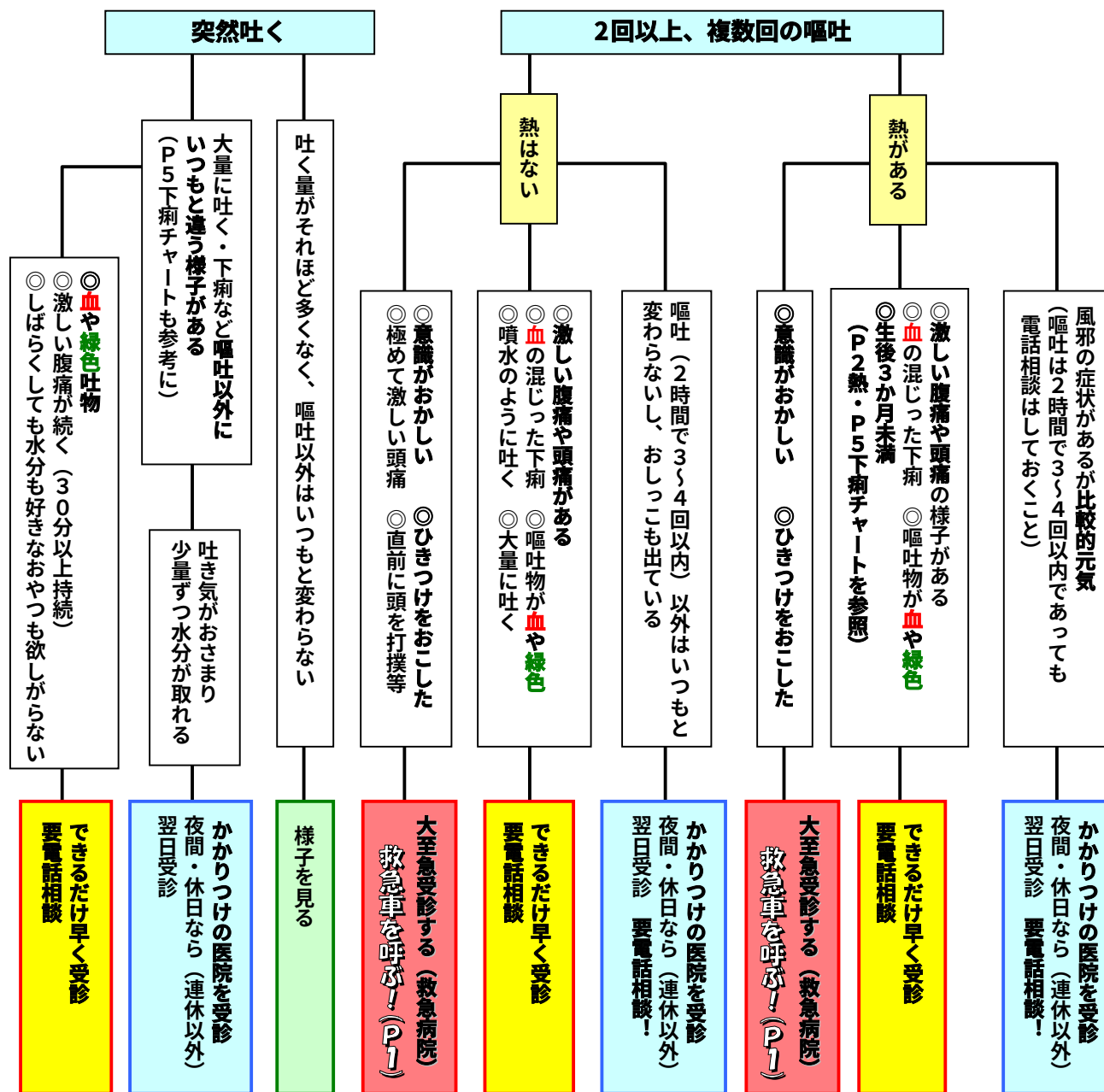
★赤ちゃんの好きなものを飲ませる。脱水症にならないよう、嫌がらなければ少しずつこまめに水分を補給してあげましょう。(P14参照)

★顔、体、衣類、寝具も清潔に。口のまわり、あごや耳の中など吐いたものが流れ込んでいるときがあります。しめらせたガーゼでそっとふき取ります。

★吐き気が続くときは、やさしくだっこ。だっこの時は赤ちゃんが吐くことも考えて、お母さんは肩から胸にタオルを当てておくようにします。

寝かせる時は上体を高くして顔を横にして。

全てのチャートはあくまでも目安です。症状は人によって異なるため様子をよく観察し、心配な時は受診すべきかどうかを電話で相談しましょう。



赤ちゃんは少しの刺激で吐くことがよくあります

赤ちゃんの胃は大人のように曲がった形ではなく、細長い筒のような形をしているため、大人より吐きやすいもの。また、胃の入り口である噴門の筋肉が未熟なため、ちょっとした刺激で吐いてしまうことがあります。授乳後に口の端からおっぱいやミルクをダラダラと吐く(いつ乳)ことがあります。元気があり、体重が順調に増えていれば心配ありません。また、げっぷとともにおっぱいやミルクを吐いてしまったり、咳き込んで食べたものをどすのはよくあることです。吐いた量が多くなく、機嫌がよくてほかに症状がなければ心配いらないでしょう。



家族や友人に伝染することがありますので、便や吐物の処理や手洗いをしっかりとしましょう。
受診時には便の入ったオシメをビニール袋に**厳重に包んで**病院へ持参しましょう。
新鮮なうちに携帯写真に撮っておくこと。

小児救急電話相談
「#8000」を活用
しましょう(P1参照)



下痢



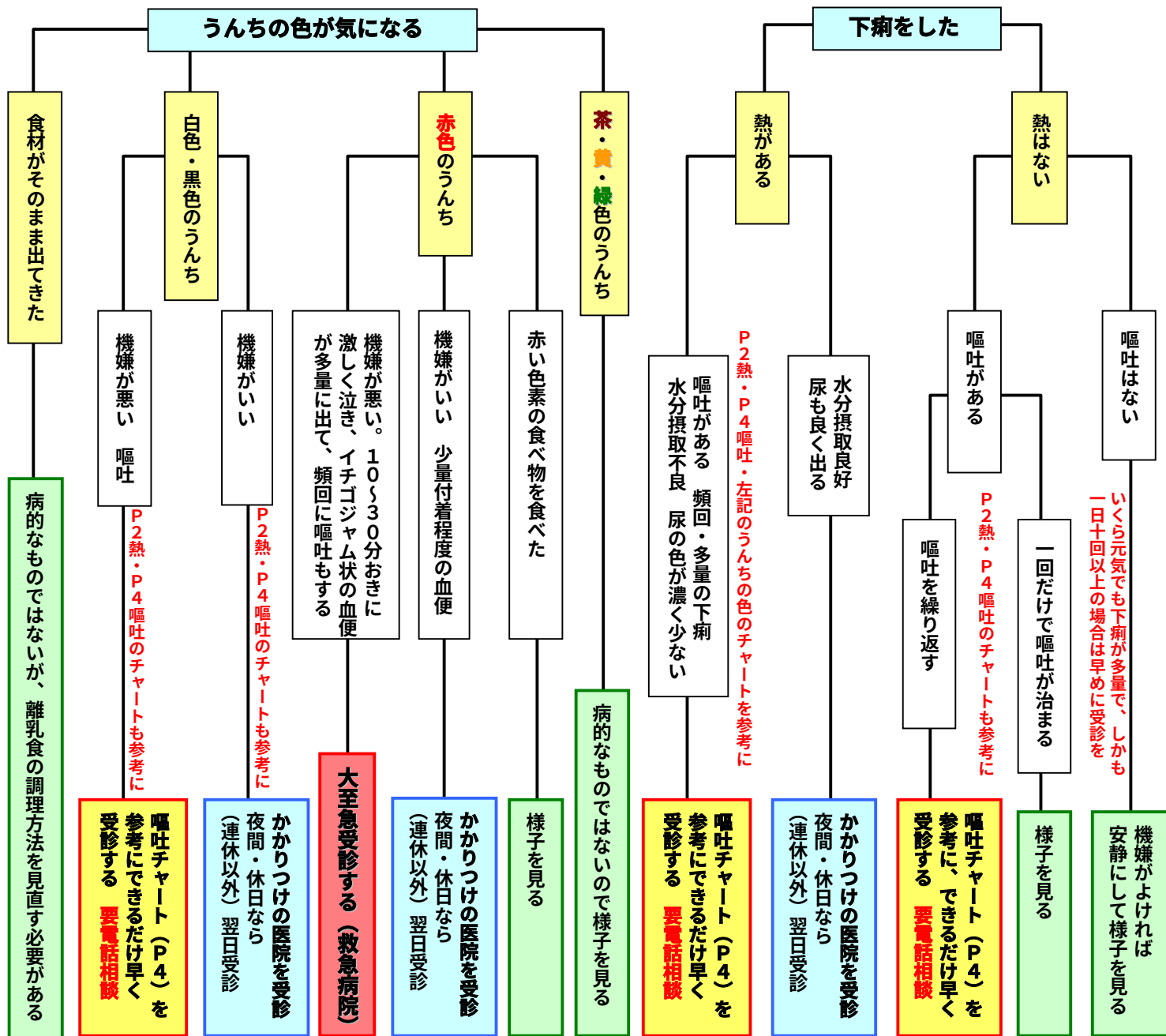
医師に伝えること

- ・排便回数
- ・便の性状(色や硬さ)
- ・最近、飲んだもの、
食べたものについて
- ・発熱や嘔吐など、
他の症状について
- ・おしっこの回数や量・色

ホームケア

★脱水症状にならないように、水分を補給しましょう。(P14参照)
食事は消化の良いおかゆなどを与えます。オムツかぶれをするのでガーゼ
やタオルでおしりを拭きましょう。時には、シャワーでおしりだけを洗っ
たり、洗面器にお湯をいれ下半身だけに入浴させ、よく乾かしてからベビ
ーオイルをつけオムツを当てましょう。

全てのチャートはあくまでも目安です。症状は人によって異なるため様子
をよく観察し、心配な時は受診すべきかどうかを電話で相談しましょう。



赤ちゃんは下痢をしやすく、うんちの色はさまざまです

少しくらい緩めのうんちでも、元気で食欲があれば問題ないでしょう。うんちの状態や排泄の回数は個人差がある
ので、普段から様子をよく観察して。風邪などの全身の病気の一症状として下痢をすることもあります。下痢
以外の症状がないか確認を。下痢の時はおしりがかぶれやすいので気をつけましょう。赤ちゃんのうんちの色は
おっぱい、ミルク、離乳食のメニューや月齢などによりさまざま。茶・黄・緑色のうんちは病気ではありません。
赤・白・黒色のうんちは病気の可能性があるため注意しましょう。

15分間鼻をつまんで下を向かせる。血は飲み込まず、口から出す。この止血を2回繰り返してみる。



**小児救急電話相談
「#8000」を活用
しましょう (P1参照)**



いつもと
様子がちがう

